

Sun Control Station

SCS 2.1 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-5888-10
2004 年 4 月 , [Revision A](#)

本マニュアルについてのご意見は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>までお寄せください。

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、JavaServer Pages、JSP、JumpStart、Netra、Solaris、Sun Blade、Sun Cobalt RaQ、Sun Cobalt Qube、Sun Enterprise、Sun Fire、および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPEN LOOK および Suna Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における、米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装する米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されるほか、米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に準拠します。

U.S. Government Rights - Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

リリースノート 1

フレームワーク 1

AllStart モジュールでバックアップによって定義済みの OS ディストリビューションが取得されない 1

管理対象ホストにおけるエージェントの cron ジョブの不具合 2

機能していないエージェントのホストへの追加 3

AllStart 4

複数の CD-ROM からのディストリビューションの読み込み 4

クライアントを使用可能にするために十分なディスク容量がない 4

AutoDiscovery クライアントのビルドステータスが表示されない 5

AutoYaST 5

管理対象ホストを eth1 上で再構築できない 5

カスタムファイルのインストール 6

メソッド 1 6

メソッド 2 7

ソフトウェア管理 (Software Management) 7

YOU サーバー 7

Sun Control Station の場合 7

Sun JDS クライアントで、次のようにします。 9

端末ウィンドウから SCS YOU サーバー上のパッチへのアクセス 9

表示オプション	11
URL の妥当性検査	11
大量のパッケージファイルに関する情報	11
必要なソフトウェアのリストの更新	11
パッケージファイルの依存性チェックの相違点	12
例	12
インストール可能なパッケージファイルの相互依存性チェック	14
ヘルスモニタ (Health Monitoring)	15
設定の不一致	15
ポーリング間隔	15
デフォルトの間隔	16
イベント生成スクリプトが常に eth0 の IP アドレスを使う	16
パフォーマンス	16
ディスクの空き容量に関して間違った情報が表示される	16
一般的な問題点	17
テキスト入力フィールドでの制御文字-	17
Sun Control Station へのログインパスワードのリセット	17
マルチバイト文字-	18
ファイル名およびディレクトリパス	18
テキストフィールド	18
Sun Control Station 2.1 がサポートするクライアント	18
SPARC ベースのクライアント-	18
x86 ベースのクライアント-	19

リリースノート

フレームワーク

AllStart モジュールでバックアップによって定義済みの OS ディストリビューションが取得されない

AllStart モジュールで使用する OS ディストリビューションのサイズの問題により、Sun Control Station のバックアッププロセスの一部としてディストリビューションファイルが取得されません。

AllStart モジュールでは、バックアッププロセスにより「Files」、
「Distributions」、「Profiles」、「Payloads」、「Clients」、「Services」、
「Advanced」の各設定に対する定義済みのメタデータが取得されます。個別のディストリビューションファイルを再ロードして、再度ペイロードを作成する必要があります。

OS ディストリビューションを再ロードする場合は、ディストリビューションに新しい名前を付ける必要があります。UI には古いディストリビューションに対するメタデータも表示されますが、ビルドには使用できなくなります。これらの古いディストリビューションに対するメタデータは、クライアントを新しいペイロードにリダイレクトするまで削除できません。

AllStart モジュールにデータを復元する手順は、次のとおりです。

注 - バックアップおよび復元の手順の詳細は、『Sun Control Station 管理者マニュアル、817-5893-10』の第 2 章を参照してください。

1. `.scs` バックアップファイルを Control Station で復元します。
2. 以前読み込んだディストリビューションを再ロードします。再ロードされたディストリビューションには新しい名前を付ける必要があります。
3. ペイロードを編集して、新しいディストリビューションが使用されるようにします。
4. 「AllStart Distributions」テーブルから古いディストリビューションを削除します。

管理対象ホストにおけるエージェントの cron ジョブの不具合

管理対象ホストの Sun Control Station エージェントの機能が停止した場合、エージェントを再起動する cron ジョブが実行されません。

問題が発生したと思われる場合は、次の操作を行います。

注 - 管理対象ホスト上で下記のコマンドのすべてを実行します。

1. エージェントが機能しているかどうかを判定します。次のコマンドを実行します。

```
ps -ef | grep agent
```

2. 次のような行があるかどうかを調べます。

```
root 13367 1 0 Mar26 ? 00:00:01 /usr/mgmt/libexec/agent-Linux-i386
server -port 27000
```

そのような行が見つからなければ、エージェントは機能していません。

3. 次のようなコマンドを `root` として実行して、エージェントを手動で再起動します。

```
/etc/init.d/init.agent start
```

機能していないエージェントのホストへの追加

機能しているエージェントを持たないホストを追加しようとすると、ユーザー名とパスワードが間違っているというメッセージが表示されます。

1. 次のコマンドを実行して、管理対象ホスト上にエージェントがあるかどうかを確認してください。

```
rpm -qa | grep agent
```

- a. 管理対象ホスト上にエージェントがある場合は、このコマンドを実行すると、次の行のような結果が返されます。

```
base-mgmt-agent-1.1-22
```

ホスト上のエージェントが機能しているかどうかを判定するには、2 ページの「管理対象ホストにおけるエージェントの cron ジョブの不具合」で詳細な手順を参照してください。

- b. 管理対象ホスト上にエージェントがない場合は、このコマンドを実行してもその結果として何も返されません。

この場合、エージェントのコピーを取り、それを管理対象ホスト上にインストールする必要があります。

2. 次のコマンドを実行して、Control Station からエージェントのコピーを取ることができます。

```
wget http://<IP アドレスまたはコントロールステーションのホスト名>/  
pkgs/base-mgmt-agent-1.1-22.i386.rpm
```

3. 次のコマンドを実行して、管理対象ホスト上にエージェントをインストールします。

```
rpm -ihv base-mgmt-agent-1.1-22.i386.rpm
```

4. 次のコマンドを実行して、エージェントを起動します。

```
/etc/init.d/init.agent start
```

AllStart

複数の CD-ROM からのディストリビューションの読み込み

CD-ROM のセットから OS ディストリビューションをアップロードするときは、アップロード処理がすべて完了するまでお待ちください。「Task Progress」ダイアログが表示されているときは「Put Task in Background」オプションをクリックしないでください。また、UI で別のタスクを選択しないでください。

このどちらかの操作を行うと、セット内の次の CD-ROM に進むことができず、ディストリビューション全体がアップロードされません。

万一、タスクをバックグラウンドに移動した場合は、このディストリビューションを「AllStart Distributions」テーブルから削除し、同じ手順を最初からやり直す必要があります。

クライアントを使用可能にするために十分なディスク容量がない

ハードディスクドライブに十分な空き容量がない場合、クライアントを使用可能にするタスクが失敗しますが、タスクが失敗したことを知らせるメッセージは UI に表示されません。

この場合、そのクライアントへのペイロードのインストールが失敗し、ksconfig ファイルを検出できなかったか、NFS サーバーからの応答がなかったことが示されます。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

1. ハードディスクドライブの空き容量を増やします。
2. コントロールステーションの UI で、失敗したペイロードと同じ設定の新しいペイロードを追加します。
3. クライアントで新しいペイロードが使用されるように切り替えます。
4. (省略可能) 古いペイロードを削除します。
5. (省略可能) 新しいペイロードの名前を変更します。

AutoDiscovery クライアントのビルドステータスが表示されない

クライアントのビルドでは、進行状況が UI に表示されます。ただし、AutoDiscovery クライアントのビルドステータスはテーブルに表示されません。

AutoYaST

AllStart モジュールでは、Sun JDS クライアントのビルドに AutoYaST 機能が使用されます。

AutoYaST 機能については、次のような既知の問題があります。

1. シリアルポートを使用して、またはテキストモードでクライアントをビルドする場合、AutoYaST は `/usr/X11R6/bin/` のビデオカードに対して X サーバーをリンクしません。
2. 接続されているモニタを AutoYaST が検出できない場合は、X モニタの構成は無視されます。
3. KVM に接続されているクライアントのビルドにより、AutoYaST がモニタを検出できなくなる場合があります (KVM とモニタの種類による)。
4. `/etc/X11/XF86Config` のキーボードセクションは英語にハードコードされています。キーボードの設定を再構成するには、コマンド `/sbin/yast2` を実行します。
5. AutoYaST は、どのような場合でも perl スクリプトを実行できません。STDERR をリダイレクトするファイル名が正しく生成されていません。これによりすべての perl スクリプトが失敗します。

管理対象ホストを eth1 上で再構築できない

Sun Control Station は、eth0 または eth1 上で管理対象ホストを管理できます。

AllStart クライアントとして追加する管理対象ホストがあり、このクライアントを eth0 以外に NIC 上でビルドする場合は、管理対象ホストを手動で追加する必要があります。単一のクライアントを追加する手順を参照してください。

現在、管理対象ホストをクライアントとして追加する場合、AllStart はデフォルトでは eth0 上でクライアントを再構築します。この場合、ビルドプロセスの中でクライアントが再起動されると、Control Station に再接続できなくなり、ビルドが失敗します。

カスタムファイルのインストール

AllStart 内で、Control Station にカスタムファイルをアップロードしてから、このファイルをペイロードに追加することができます。カスタムファイルは tar ボールでも zip ファイルでもそれ以外のタイプのファイルでもかまいません。

カスタムファイルをアップロードすると、インストールのスクリプト前またはスクリプト後のセクションでカスタムファイルにアクセスすることができます。ただし、インストーラは RPM タイプのファイルのインストール方法だけを認識しています。

ファイルにアクセスするスクリプトを記述する前に、ペイロード番号を知っておく必要があります。

メソッド 1

1. 次のコマンドを実行して、ペイロード ID のリストを取得します。

```
/scs/sbin/as_payload.pl -l
```

このリストで、必要なペイロードを突き止め、行の冒頭にある ID 番号を調べます。

2. 次の例のようなコマンドを実行して、http:// および wget からペイロードファイルにアクセスします。

```
#!/bin/sh

wget http://<コントロールステーションの IP アドレス>/allstart/web
/<ペイロード ID>/suse/custom/tarball.tgz

tar xzvf tarball.tgz

sh tarball/install
```

メソッド 2

上記以外の方法としては、Sun Control Station サーバー上で手動で、たとえば /scs/share/allstart/web/files のようなディレクトリを作成します。

この新しく作成したディレクトリにファイルを置きます。ファイルには、次のコマンドを実行してアクセスすることができます。

```
wget http://<コントロールステーションの IP アドレス>/allstart/web/files/<ファイル名>
```

このようにして、ディレクトリパスの変更を気にせずに、カスタマイズスクリプトでファイルを参照することができます。

ソフトウェア管理 (Software Management)

YOU サーバー

YOU サーバーとして機能するように Sun Control Station を構成するには、Control Station と Sun JDS クライアントの両方について、複数の手順があります。

Sun Control Station の場合

1. Software Management モジュールで YOU サーバーを構成します。
 - a. 「Software Management」 > 「Remote Servers」 を選択します。
「Remote Software Servers」 テーブルが表示されます。
 - b. テーブルの下にある「Add Server」 をクリックします。
「Add A Remote Software Server」 テーブルが表示されます。
 - c. 次の情報を入力します。
 - 「Server Type」 - プルダウンメニューから、「YaST Online Updater」 を選択します。
 - 「Server Name」 - サーバー名を入力します。
 - 「Server URL」 - Sun Microsystems の更新サーバーの URL を入力します。
`http://jdsupdate.sun.com:8080/lpsauth-1.0/updates/`

- 「Description」 (省略可能) - このサーバーの簡単な説明を入力します。説明フィールドには 255 文字まで使用できます。
- 「User Name」。
- 「Password」。

注 - Sun JDS メディアキットの *Sun Java Desktop System Support Entitlement Certificate* の中に、この YOU サーバーにアクセスするためのユーザー名とパスワードがあります。

- 「HTTP Proxy:Port」 (省略可能) - リモートソフトウェアサーバーに対してファイアウォール外にアクセスするときに、プロキシサーバーを介さなければならない場合は、HTTP クエリ用のプロキシサーバーとポート番号を入力します (たとえば、`proxy.mycompany.com:8080` のように入力します)。
- 「FTP Proxy:Port」 (省略可能) - リモートソフトウェアサーバーに対してファイアウォール外にアクセスするときに、プロキシサーバーを介さなければならない場合は、FTP クエリ用のプロキシサーバーとポート番号を入力します (たとえば、`proxy.mycompany.com:8080` のように入力します)。

d. 「Save」をクリックします。

「Remote Software Servers」テーブルに新しいサーバーが追加されて更新されます。サーバーは、サーバー名の昇順で表示されます。

2. Software Management の「Packages」テーブルとリモートの YOU サーバーとの同期をとります。

a. 「Software Management」 > 「Packages」を選択します。

「Packages」テーブルが表示されます。

b. テーブルの上の「Refresh」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

この操作により、リモートの YOU サーバーからファイルがダウンロードされます。<http://jdsupates.sun.com> には、現在 2 つのパッチがあります。

3. 1 つまたは複数のパッチをパブリッシュします。

a. 「Software Management」 > 「Packages」を選択します。

「Packages」テーブルが表示されます。

b. 利用可能なパッケージファイルリストで、パブリッシュするファイルを選択します。

c. テーブルの下にある「Publish」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

この操作により、次の URL でパッチを利用できるようになります。

`http://[<scs_ipaddr OR scs_hostname>]/you/`

Sun JDS クライアントで、次のようにします。

注 - YaST の AutoInstall 機能を使用すると、利用可能なパッチがすべてインストールされます。パッチを個々に選択してインストールすることはできません。

YOU サーバーから個々のパッチをインストールする場合、端末ウィンドウから `yast` を実行できます。9 ページの「端末ウィンドウから SCS YOU サーバー上のパッチへのアクセス」を参照してください。

1. 次のコマンドを実行して、SCS を YOU 更新サーバーに指定します。

```
echo 'http://<scs_ipaddr OR scs_hostname>/you/' > /etc/suseservers
```

2. YaST Online Update サーバーリストの更新を無効にします。この場合は、次のファイルを編集します。

```
/etc/sysconfig/onlineupdate
```

3. 次の行を変更します。

```
YAST2_LOADFTPSEVER="yes"
```

から

```
YAST2_LOADFTPSEVER="no"
```

端末ウィンドウから SCS YOU サーバー上のパッチへのアクセス

次の 2 つの方法で、SCS YOU サーバーからパッチにアクセスし、インストールすることができます。

- コマンドラインから
- `yast` または `yast2` ユーティリティから

コマンドライン

- 端末ウィンドウから次の 2 つのコマンドを入力します。

```
yast online_update .auto.get
```

```
yast online_update .auto.install
```

yast または yast2 ユーティリティ

端末ウィンドウから Sun Control Station YOU サーバーにアクセスすることもできます。

1. 端末ウィンドウで yast または yast2 を起動します。

```
yast
```

または

```
yast2
```

2. 「Software」 > 「Online Update」を選択します。
3. 「Choice of Update Mode」ダイアログボックスで、「Manual Update」を選択します。
4. 右下隅にある「Next」を選択し、Return キーを押します。
5. 「Authorization」ポップアップウィンドウで、ユーザー名またはパスワードを入力しないでください。ログインを選択して、Return キーを押します。
利用可能なパッチのリストが表示されます。
6. インストールしたいパッチを選択します。
7. インストールを続行するには、「OK」を選択して Return キーを押します。

注 - YOU サーバーに利用可能なパッチがない場合は、「Authorization」ポップアップウィンドウからログインするとエラーメッセージが表示されることがあります。

表示オプション

Software Management モジュール内では (「Packages」 > 「Display Options」を選択)、表示するパッケージファイルの種類を指定できます。

特定のアプライアンスのパッケージファイルだけを表示するには、「All」という項目、およびパッケージファイルを表示したくない個々のアプライアンスを、「Products Displayed」スクロールウィンドウから「Products Not Displayed」スクロールウィンドウに移動してください。

URL の妥当性検査

リモートソフトウェアサーバーを追加するときに、サーバーへの URL パスの妥当性検査は行われません。スラッシュの代わりにバックスラッシュを使用して URL パスを追加すると、Java 例外が発生します。

パスはスラッシュを使用して正しく入力してください。次のように指定します。

```
http://<完全修飾ドメイン名>/packages/
```

大量のパッケージファイルに関する情報

「Packages」画面で、パッケージファイルを選択してテーブルの下にある「Info」ボタンをクリックすると、そのパッケージファイルに関する情報が表示されます。

情報を表示するパッケージファイルを大量に選択すると、システムは選択したパッケージファイルのすべてについて情報を表示しないことがあります。

必要なソフトウェアのリストの更新

指定された管理対象ホストで必要なソフトウェアのリストは、自動的に更新されません。このタスクは手動で実行する必要があります。

このタスクを実行するには、「Needed Software」テーブルで管理対象ホストを選択して、右下隅にある「Update」ボタンをクリックします。

パッケージファイルの依存性チェックの相違点

「Packages」テーブルでパッケージファイルを選択してそれを管理対象ホストにインストールすると、Control Station はパッケージファイルに依存性チェックを行います。

「Needed Software」テーブルで管理対象ホストを選択し、そのホストで必要なソフトウェアのリストを更新しても、依存性チェックを行います。

Control Station がこれら 2 つのテーブルで依存性チェックを行う方法には相違点があります。

- 「Packages」テーブルからパッケージファイルを選択すると、Control Station は選択したパッケージファイルを管理対象ホストにインストールできるだけの依存性が満たされていることを確認します。
- 「Needed Software」テーブルからパッケージを選択すると、Control Station は利用可能なパッケージファイルのリストに対して、管理対象ホストにインストールされたソフトウェアのインベントリを確認します。さらに新しいバージョンのパッケージファイルが利用可能なら、そのファイルがリストに追加されます。

この相違点は、あるバージョンのパッケージファイルが管理対象ホストにインストールされていて、別のバージョンの同じパッケージファイルが Control Station のリポジトリに常駐している場合に認められることがあります。

例

例として、Sun JDS リリース 2 の場合、RPM `expect` のバージョンは `QS5d` (ベータバージョンのソフトウェア) と `QS7` (ベータバージョン後のビルド) の間で異なります。

`QS5d - expect-5.34-277`

`QS7 - expect-5.34-288`

次の場合を考えてみましょう。

- Control Station のリポジトリには、`ITvpntool` が依存しているすべてのパッケージファイルに加えて RPM `ITvpntool` があります。(RPM `ITvpntool` が、インストールしたい RPM です。)
- Control Station で利用可能な `expect` のバージョンは `expect-5.34-288` です。

ITvpntool は、ITgcfg およびバージョン 5.3 かそれ以降 (3) の expect の両方を必要とします。

注 - この例では、RPM ITgcfg が管理対象ホストにインストールされていないものと仮定しています。

「Packages」テーブルから、QS5d ソフトウェアを実行している管理対象ホスト上に RPM ITvpntool をインストールします。この場合、QS5d ソフトウェアの一部としてホストにインストールされている RPM expect-5.34-277 によって、依存性 “expect\$ 5.3” が満たされますが、依存性 ITgcfg は満たされません。その結果、追加 RPM (ITgcfg) が 1 つだけ RPM ITvpntool とともにインストールされるよう選択されます。QS7 を実行している管理対象ホストに RPM ITvpntool をインストールしたい場合は、同じ結果になります。

別の方法として、「Needed Software」テーブルから、この同じ管理対象ホストを選択し、更新操作を行って、そのホストに必要なソフトウェアのリストを表示するものとしましょう。

QS5d の場合、expect のより新しいバージョン (expect-5.34-288) は管理対象ホストへのインストールに利用できます。したがって、管理対象ホストに利用可能なパッケージファイルのリストには、このより新しいバージョンの expect、RPM ITgcfg および RPM ITvpntool が含まれています。逆に、QS7 を実行している管理対象ホスト上でこの操作を実行すると、RPM expect-5.34-288 はすでにホストにインストールされているため、リストには含まれません。

「Packages」テーブルで RPM expect-5.34-288 を選択して、QS5d を実行しているホストにインストールすると、より新しいバージョンが “installable” として表示されます。また、それを選択して QS7 を実行しているホストにインストールすると、Control Station は RPM はすでにインストールされているというメッセージを返します。

インストール可能なパッケージファイルの相互依存性 チェック

「Needed Software」テーブルで、管理対象ホスト上で更新操作を行うと、Control Station はホストで利用可能なパッケージファイルのリストを作成します。また、これらのファイルに対して必要な依存性チェックを行います。生成されたリストには、インストールする最初の項目がリストの一番上に表示された状態で、正しいインストールの順番にパッケージファイルが並べられて表示されます。

パッケージファイルをすべて一度にインストールする場合、Control Station がすでに依存性の必要条件に従ってファイルを並べているために、インストールはうまくいきます。

パッケージを個別にインストールする場合、リストの一番上から始めて、リスト内のすべてのファイルをインストールしていけば、やはりインストールはうまくいきます。

しかし、表示された順番を外して個々のパッケージファイルをインストールすると、インストールがうまくいかない場合があります。これはリスト上部にある 1 つ以上のパッケージファイルは、選択されたパッケージファイルに対する依存性を持つ場合がありますからです。

特定のパッケージファイルだけをインストールする場合、名前に注意を払い、「Packages」テーブルからパッケージファイルをインストールします。この場合、Control Station はこのパッケージファイルに依存性チェックを行い、追加する必要があるパッケージファイルを自動的に追加します。

ヘルスマニタ (Health Monitoring)

設定の不一致

複数の Sun Control Station で、1 台のホストを管理することが可能です。その中のどの Control Station からでも、CPU アラームしきい値など、ヘルスマニタの設定を変更できます。そのため、ある Control Station 上で設定を変更すると、変更された値はすべての管理対象ホストに伝えられます。

このような場合、最も新しい設定変更による値によって管理対象ホスト上の初期値が上書きされますが、他の Control Station の UI に表示される設定には、この設定変更は反映されません。

この問題を解決するには、複数の Control Station で特定のホストを管理している場合、各 Control Station で、ヘルスマニタの設定を必ず同一の値に設定してください。

ポーリング間隔

「Alive Polling」(アライブポーリング) の間隔は 1 分以上に設定できます。「Status Polling」(ステータスポーリング) の間隔は 1 時間以上に設定できます。

アライブポーリングの間隔は 5 分以上に設定することをお勧めします。Sun Control Station が多数のホストを管理している場合には、長めの間隔を設定する必要があります。Control Station でアライブではないホストが検出された場合、アライブポーリングのタイムアウト時間は 1 分です。

ステータスポーリングの間隔は 2 時間以上に設定することをお勧めします。Sun Control Station が多数のホストを管理している場合には、長めの間隔を設定する必要があります。Control Station で通信できないホスト (SCS エージェントの障害を含む) が検出された場合、ステータスポーリングのタイムアウト時間は 10 分です。

アライブポーリングおよびステータスポーリングを頻繁に行うと、非常に大きなファイルが生成され、/var ディレクトリが一杯になる可能性があります。

デフォルトの間隔

アライブポーリングの間隔はデフォルトで 5 分に設定されています。

ステータスポーリングの間隔はデフォルトで 2 時間に設定されています。

これらのデフォルト値は変更できます。詳細は、PDF ファイル『管理者マニュアル』の第 3 章にあるスケジューラ機能に関する説明を参照してください。

イベント生成スクリプトが常に eth0 の IP アドレスを使う

Health Monitoring モジュールを使用する管理対象ホストでは、eth0 が有効なとき、イベント生成スクリプトによって、常に eth0 の IP アドレスがその他の情報とともに Control Station に返されます。

この管理対象ホストが、eth0 に関連付けられている IP アドレスとは別の IP アドレスを使用してコントロールステーションのフレームワークにインポートされた場合、ヘルスマニタの状態テーブルに、この管理対象ホストの正しい状態が表示されない可能性があります。

この問題を解消するには、管理対象ホストの詳細情報のテーブルを表示しているときに、テーブルの上にある「Update Now」をクリックします。アライブポーリングまたはステータスポーリングの各タスクで正しい状態が検出されるのを待つこともできます。

eth0 に関連付けられた IP アドレスを使用して管理対象ホストを再インポートすることもできます。

パフォーマンス

ディスクの空き容量に関して間違った情報が表示される

「Detailed Information」テーブルを表示して、選択したホストのパフォーマンス情報について調べることができます。

ハードディスクドライブの容量が 32 GB 以上の場合、「Filesystem Usage」テーブルの情報は「In Use (MB)」および「Free (MB)」カラムで合計して、最大値の 32767 MB を示すだけです。

一般的な問題点

テキスト入力フィールドでの制御文字-

次の制御文字はテキストフィールドでは有効ではありません。例外を引き起こす場合があります。

- 引用符 (‘ または “)
- アポストロフィ (’)
- バックスラッシュ (\)
- 小なり記号 (<)
- ナンバー記号 # (octothorpe)

Sun Control Station へのログインパスワードのリセット

Sun Control Station 2.1 のログインパスワードをリセットするには

1. 好みのエディタを使用して、次のファイルを開きます。

```
/var/tomcat4/webapps/sdui/WEB-INF/database.xml
```

2. password= で始まる行を次のように変更します。

```
password="0DPiKuNIrrVmD8IUCuwlhQxNgZc="
```

これでパスワードが “admin” にリセットされます。

3. ファイルを保存します。
4. 次のコマンドを実行して、tomcat を再起動します。

```
/etc/rc.d/init.d/tomcat4 restart
```

これで、ブラウザから Sun Control Station にログインできるはずです。

マルチバイト文字-

使用している Web ブラウザおよびエンコードの設定により、2 バイト文字またはマルチバイト文字が非 ASCII 文字の表示に使用されることがあります。---

ファイル名およびディレクトリパス

ファイル名またはディレクトリパスに非 ASCII 文字を使用することはできません。Sun Control Station は、ファイル名またはディレクトリパスにこれらの文字が使われていると、正しく処理できません。

テキストフィールド

非 ASCII 文字をブラウザベースのユーザーインターフェースでテキストフィールドに入力することはできますが、正しく表示されない可能性があります。--

Sun Control Station 2.1 がサポートするクライアント

Sun Control Station 2.1 は稼働中の次のクライアントを管理できます。

注 - [S8] および [S9] はそれぞれ、Solaris オペレーティングシステム (OS) 8.0 および Solaris OS 9.0 が稼働しているクライアントを表します。

SPARC ベースのクライアント-

Sun Control Station 2.1 がサポートする SPARC ベースのクライアントには次のものがあります。

- Netra™ T1120-1125 [S8 または S9]
- Netra T1 [S8 または S9]
- Netra X1 [S8 または S9]
- Sun Enterprise™ 4500-5500 [S8 または S9]
- Sun Blade 1000-2000 [S9]
- Sun Blade™ 100-150 [S9]
- Sun Blade 1500 [S9]
- Sun Blade 2500 [S9]
- Sun Enterprise 220R [S8 または S9]

- Sun Enterprise 420R [S8 または S9]
- Sun Fire™ 280R [S8 または S9]
- Sun Fire V100-120 [S8 または S9]
- Sun Fire V480 [S8 または S9]
- Sun Fire V880 [S8 または S9]
- Ultra™ 1 [S8 または S9]
- Ultra 2 [S8 または S9]
- Ultra 250 [S8 または S9]
- Ultra 30 [S8 または S9]
- Ultra 450 [S8 または S9]
- Ultra 5-10 [S8 または S9]
- Ultra 60 [S8 または S9]
- Ultra 80 [S8 または S9]

x86 ベースのクライアント-

Sun Control Station 2.1 がサポートする x86 ベースのクライアントには次のものがあります。

- Sun Java Desktop System リリース 2
- x86 Red Hat EL AS 2.1
- x86 Red Hat EL ES 2.1
- x86 Red Hat EL WS 2.1
- x86 Red Hat 7.3
- x86 Red Hat 8.0
- x86 Red Hat 9
- Sun Fire V60x
- Sun Fire V65x
- Sun LX50
- Sun Cobalt Qube™ 3
- Sun Cobalt Qube 3 J
- Sun Cobalt RaQ™ XTR
- Sun Cobalt RaQ XTR J
- Sun Cobalt RaQ 550

